

## 質問

9月1日の面談資料 2-2 の 34 ページに記載された設定を行った場合、ボイドが発生しないため熱が上昇してドップラの効きが良くなるといった影響が生じていないか、反応度毎の時刻変化をオプション毎に比較して示して下さい。

### 9月1日の面談資料 2-2 の 34 ページ (抜粋)

ボイド反応度フィードバックに係る不確かさの大きな低温時の制御棒落下事故時のボイド挙動に対する熱水力試験についてはこの 2 種類の試験データベースで出力急昇時におけるボイド発生条件、ボイド率の時間変化などの重要な特性が押さえられている。

しかし、これらの熱水力試験だけではスぺーサの影響などの不確かな現象が一部に残るために、CRDA におけるボイド発生のほとんどを担うサブクール沸騰領域のボイド発生を見込まない設定を RIA 模擬ボイドモデルに適用した解析を実施するよう事業者から指示したところである。CRDA 及び起動時の RWE に係るソフトウェア CCF 重畳事象の解析においても、この指示に基づいて解析が実施されている。

このような設定によって通常の CRDA では極めて保守的なボイド反応度フィードバックにつながるボイド挙動につながることを事業者は確認している。